

○平成21年定例会

【質問】 安全・安心な道路確保のための道路整備の選択と集中以外の幹線道路の円滑化対策についての県の考えは。【1-(3)-③】

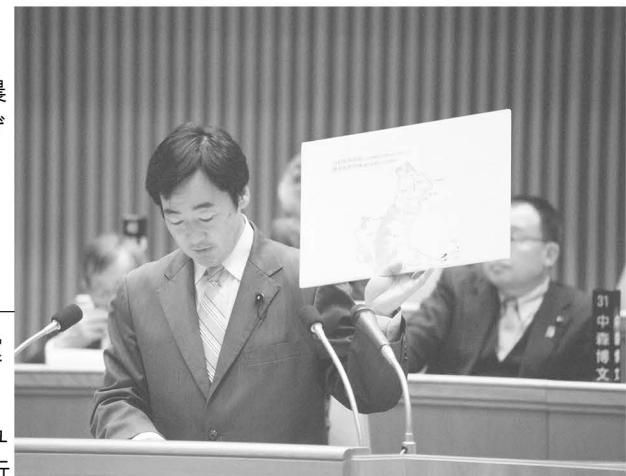
【答弁】 幹線道路における円滑化対策については、国道1号、23号を中心に管制エリアを設置し、信号機を本部交通管制センターのコンピューターで集中制御し、そこにおける交通量や交通渋滞などの情報を分析して、交通流・交通量の変化に対応した最適な信号制御をリアルタイムに行っている。また、右折車両が多い交差点に右折矢印を設置したり、交通量の多い道路を優先的に青信号とする機能を付加するといった、信号機の高度化を推進するなどの対策により、交通の円滑化を図っている。

県警察としては、今後も引き続き、管制エリアの拡大や信号機の高度化などにより、幹線道路における円滑化を推進していきたい。

【質問】 過疎化、高齢化が進む中山間地域の振興に向けた県の考えは。【2-(1)】

【答弁】 県としては、地域の農産物や景観、暮らし、食文化といった地域資源を活用し中小企業者等との農商工連携などによる産業の活性化を推進するとともに、都市との交流を通じた地域の活性化につなげていく取組を進めている。また、これらの推進において基盤となる農業生産の維持、効率化や定住の促進を図るため、ほ場整備や集落道路等を整備するハード事業を実施している。

今後とも中山間地域の豊かな資源を活用した地域の持続的な発展と定住の促進に努め、元気な中山間地域づくりをめざしていく。



【質問】 中山間地域に若者が定住するための手段の一つとして、地域振興の視点からのコミュニティバスの運行についての県の考えは。【2-(2)】

【答弁】 中山間地域における移動手段の確保は、大きな課題となっており、県としては、単独で市町のコミュニティバスなどに対し支援を行うとともに、バス事業者の広域幹線道路に対して国と協調して支援を行い、生活交通の確保に努めている。また、住民、交通事業者、国、県などで構成する市町の「地域公共交通会議」で地域の特性や実情に応じた運行方法等の議論が必要であり、県としても積極的に参加している。

一方、国においても、地方バスについて、バス事業者だけで運行を維持していく考え方から、地域住民、交通事業者、行政などが連携し、地域で運行を支えていく方向へ取組を転換している。

今後は、新たに市町の地域交通計画の策定を補助し、市町、交通事業者、地域住民と連携して、地域の実情に合った生活交通の確保に取り組んでいくよう支援していく。

【質問】 学校給食における地産地消の推進についての県の考えは。【3-(1)】

【答弁】 学校給食において、生産者の顔が見える地場産物を使用し、食に関する指導で「生きた教材」として活用することは、子どもたちが、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、食への感謝の念を育むうえで重要であると考えている。このため、平成19年3月に策定した「三重県食育推進計画」では、平成22年度までに、学校給食に使用する食材数に占める地場産物の割合を30%とする目標値を掲げ、この目標の達成に向けて、三重県教育委員会では、市町教育委員会と連携し、地域の実情を考慮しながら学校給食に地場産物を活用するモデル的な取組を進めてきた。

この結果、本年度の学校給食週間には、いくつかの市町で主体的に地場産物を取り入れた特別献立が実施された。例えば、桑名市では「なばな」や「みかん」、亀山市では「大根」や「お茶」などの地場産物が給食に使用されたと聞いている。

平成21年度には、農水商工部と連携し、「みえ地物一番の日」の直前の金曜日などを「みえ地物一番 給食の日」と位置づけ、各学校で地場産物を使用した給食や食育の実施を進めてまいります。特に、食育月間である6月には、県内一斉にこの取組を行い、学校給食における地産地消を推進していきたいと考えている。

【質問】 地産地消を通して、子どもたちが地域の方と交流することで教育効果を上げることができると考えるが、県の考えは。【3-(2)】

【答弁】 子どもたちを心豊かに育んでいく上では、学校が地域とも連携・協力していくことが大切である。例えば、松阪市の松江小学校では、食育の取組として、子どもたちが特産物のモロヘイヤについて地域の生産者の方々から話を聞き、実際に栽培して収穫したモロヘイヤで団子を作るなどの活動が行われている。また、食育に限らず、地域の方々から伝統行事について話を聞いたり、地域の方々とともに防災マップをつくったりしている学校もある。

県教育委員会としても、地域の方々に学校の環境整備や子どもたちの学習活動などに関わっていただく体制づくりについて、モデル地域を指定するなどして支援してきた。亀山市の亀山東小学校などでは、地域の方々が子どもたちとともに花壇づくりを行っている。また、尾鷲市の宮之上小学校などでは、地域の方々が本の読み聞かせを行ったり、学校図書館の環境整備に取り組んだりしている。このような地域の方々との交流を通して、子どもたちは、自然の恩恵や勤労などの感謝の気持ちを育んだり、自分が住んでいる地域への関心を深めたりしている。

今後も、子どもたちの健やかな成長に向けて、地域の方々とのさまざまな交流を通じた教育が一層推進されるよう、市町教育委員会と連携して、各学校を支援していく。

○長田県議出前講座 県議会の役割説明



平成21年1月29日、津市市立桃園小学校
6年生38人に「県議会出前講座」を開催

